



UNOBUS

宇野自動車株式会社

DESIGN WORKS

宇野バス(宇野自動車株式会社)／ブランディングデザイン

あるものを活かす。それもデザイン。

—— デザインは教育にも通じる道徳的概念 ——

田中雄一郎／ブランディングディレクター、グラフィックデザイナー

「デザイン」と聞けば何か新しいものを生み出し、奇抜で、お洒落で時には使いにくいというイメージを持たれる方も多いのではないかと思います。もちろんそういう側面もある。しかし「デザイン」とは上辺の意匠的なものだけではない。「デザイン」とは物事の本質を見極める行為であり、関わる人の人生をよりよくさせるものである。子供や友人の良いところを見つけ、その能力を伸ばす洞察力。物事の善悪を見極められる判断力。相手を思いやり、喜ばせられる想像力なども「デザイン」の一部であると考えられる。つまり「デザイン」とは教育にも通ずる道徳的概念でもある。こうした「デザイン」の概念をなるべく若い頃から学ぶことで、想像力と創造性ある豊かな人間をたくさん育てることができる。「デザイン」の技術を学べる学校は多数あるが、「デザイン」の概念を学べる学校は意外と少ない。美術系の学校で学ぶだけではなく、一般教養として小学校から、もしくは大学の全学部の共通基礎科目として学ぶ必要があるのではないだろうか。そうすれば岡山、延いては日本全体も安心・安全で、文化力溢れる本当の意味で豊かな国になるはずである。たぶん。

岡山県第一号のバス会社で、主に岡山市中心部と岡山県の東部地域を結ぶ交通を担っている宇野バスのビジュアルデザインをお手伝いしている。シンプルな車輻の美しさに定評があり、全国にもたくさんのファンがいる宇野バスは、2018年に創業100周年を迎える老舗企業ながら、三代目宇野泰正社長の下、近年次々と新しい取り組みに着手、実行している。2015年に岡山県初となる全車両で無料Wi-Fiを導入。さらに全車両GPS付タブレットを搭載し、現在のバスの位置がわかるバスロケーションシステム「バスまだ」を開発・導入。県内では初の導入で、官公庁からの補助金なしでの導入は全国初である。また2015年10月1日、宇野バスの運賃・基準賃率23円20銭(全国平均は40円02銭)が、対キロ区間制運賃制度を採用する全国の民間バス事業者で「最低」となった。公営バスを含めた180社の中でも全国2番目の安さだ。

きっかけは岡山県内の路線バスと路面電車です使えるICチップ入り乗車カード「ハレカ」の宇野バスオリジナル版を作成したいとの依頼を受けたことからだ。それまで「ハレカ」は他社と統一した種類のデザインで使用されていたのだが、宇野バスの独自性を出すとともに、よりお客様に喜んで乗ってもらい、愛着を感じてもらいたいとのこと。財布に入れて誇らしく、使いたくなるデザイン、バスは老若男女が利用するため、幅広く多くの人たちに好まれ、親しまれるデザイン、となるよう心掛けた。宇野バスのシンボルとも言えるツートンの横ラインをあしら



宇野バスオリジナルハレカ



い、イタリア語で数字の「1」を意味する「UNO」の文字を配置した。バスカラーの茶色をはじめ、ブルー、ピンク、グリーンの4色を同時発売し、選ぶときの楽しさも付加できたらと考えた。宇野バスが走っていない県外の方がわざわざ岡山に来て、コレクションとして4枚セットで買って帰ることもあるようだ。「ハレカ」をデザインしている際に「宇野バス」というロゴが英和ともバラバラであることに気づき、社長に統一したロゴの必要性和デザインを提案した。由緒ある老舗企業であるため、英字のロゴ(UNOBUS)は今までも使用されていたかのような普遍性と老若男女が利用するため公共性を重視したデザインにした。和文字のロゴ(宇野自動車株式会社)は以前(いつから使用されていたかは不明)からバスの側面などに何気なく使用されていたフォントを整えて正式なロゴにした。また偶然見せて頂いた社員の方が停留所の周辺にある施設などを書き込んだ一覧表がなんとも見事だったので、これを事務所内だけに留めておくのはもったいない!ということでキャッチコピー「交通から旅へ」とロゴを添えてポスターにし、バスセンターなどに掲示した。宇野バスを利用するお客様のために、ほぼすべての停留所一つひとつにいわばお客様目線での目的地を紹介している。これを見れば何処どこに行きたいけど、最寄りの停留所はどこだっけ?という不安が解消される。そんな今の時代ネットで検索すればわかるだろうと思うが、それは若い人やネットを使える人の話。お年寄りも多く利用する路線バスではこうしたアナログのサービスや親切心がとても大切だということを改めて痛感した。

今回実施した「デザイン」は何かを作り出したというより、老舗企業ならではの長年の歴史の中で社内に埋もれていた逸品、また身近過ぎて社長や社員の方が気づいていない価値を見つけて出し、それを整えて世の中に送り出したという感じである。新しいものを生み出すだけがデザインではない。あるものを活かす、それを正しく伝えることも大切な「デザイン」なのである。

AD・D / 田中雄一郎 PL / 森岡昭博(A.C STUDIO) DF / QUA DESIGN style

田中雄一郎 / Yuichiro Tanaka

QUADESIGN style (クオデザインスタイル)代表
www.quadesign-style.com

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻・園子とともにQUA DESIGN style(クオデザインスタイル)設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、企業、店舗、農園、医療施設、美術展などのブランディングデザインを中心に手掛ける。主な仕事に岡山大学のコミュニケーションシンボルデザイン&VI、福武教育文化振興財団のCI、宇野バスのブランディング、岡山芸術回廊のVI、ルネスホルムのVI、まび記念病院など。2015年4月渋谷ヒカリエ・d47MUSEUMで開催されたナガオカケンメイ氏プロデュース「NIPPONの47人2015 GRAPHIC DESIGN」展に選出、参加。東京TDC賞PrizeNominee、JAGDA賞ミネート、東京ADC、世界ポスターリエンナーレトヤマ2015、中国国際ポスタービエンナーレ2013入選など。共著に「ロゴデザインの現場-事例で学ぶデザイン技法としてのブランディング」(MdNコーポレーション)



宇野自動車株式会社 2-3-8 Onote-cho, Kita-ku, Okayama city, 700-0822 JAPAN TEL +81 86-225-3311 FAX +81 86-227-5281 www.unobus.co.jp



WEBSITE デザイン・制作 / 三宅真人(トライマンデザイン)

宇野バスの歴史 The History of UNOBUS

宇野バスの歴史は大正7年、岡山一輪車製造工場が作った岡山県第一号のバス会社です。

昭和20年頃の写真です。現在のバスの直前版(ワンステップバス)は約35歳ですが、当時、25歳ほどでした。

昭和40年頃の写真です。現在の長町バスセンターの建物が現れます。

カラー写真の時代になると、5歳マークがデザインがもっともよく見られるようになりました。マークがデザインがもっともよく見られるようになりました。

現在は真内にあるお客様センターです。お客様のご案内やお問い合わせをさせていただきます。

交通から旅へ。 私たちは、ただバス停とバス停を結んでいるのではなく、目的地へ向かう、お客様の「旅」のお手伝いをしたいと考えています。 <http://www.unobus.co.jp> 宇野自動車株式会社